

# ベランダバードウォッチ 2024 年夏調査報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

今年も早くも残すところ1か月を切り、窓の外からジョウビタキの鳴き声が聞こえる季節になりました。ベランダバードウォッチにご参加いただいている皆様には、2024年夏の調査の報告が大変遅くなってしまいお詫び申し上げます。お陰様で、今繁殖期も多くの方のご協力によって調査を実施することができました。以下に、2024年夏の調査の結果を報告させていただきます。

## 調査状況

2024年夏の調査は、北海道から九州までの61人によって家での調査44か所、家の周りの調査36か所の合計80か所で実施されました。図1は、2024年までの過去10年間の夏のベランダバードウォッチの調査地数の推移をまとめたものです。この期間の調査地数は年によって多少増減があるものの、両調査とも徐々に増加傾向にありました。しかし、両調査とも2020年をピークに2021年には急激に減少しました。そして2022年以降では、家での調査はやや回復したものの、家の周りの調査は減少傾向にあり、2022年以降家の周りの調査地数は家での調査より少なくなりました。なお、繁殖期の家での調査は、5月中旬から7月までに調査地あたり5回の調査を実施しますが、近年になると調査地の中には家の周りの調査と同じようにほぼ毎日調査が行なわれている調査地が増えてきました。

調査地数を地域別に比べると、例年と同じように今繁殖期も両調査とも関東地方がほかの地域より著しく多いことが見て取れます(図2)。さらに、家の周りの調査では中部地方が、家での調査では近畿地方や北海道・東北地方がやや多いことがわかりました。

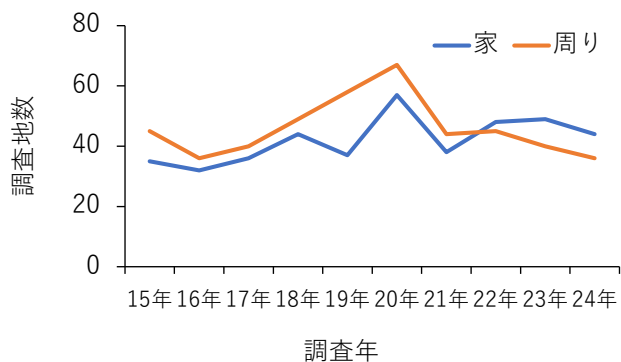


図1. ベランダバードウォッチの調査地数の変遷

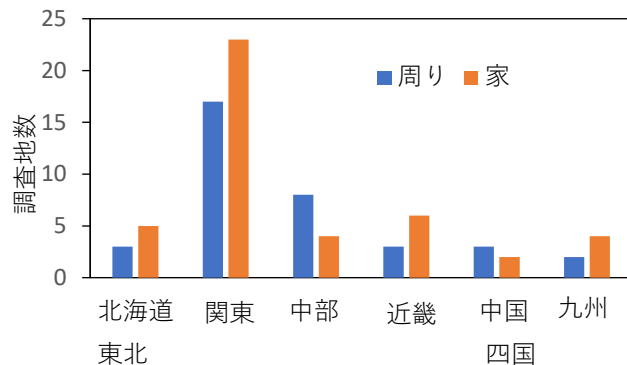


図2. 2024年の地域別のベランダバードウォッチの調査地数

## 記録種および記録状況

今繁殖期の家での調査では合計80種、家の周りの調査(調査期間4-8月)では合計104種、両調査合わせて110種が記録されました(附表)。今繁殖期の調査地数は、家での調査(44か所)のほうが家の周り(36か所)より多かったものの記録種数では家の周りのほうがやや多く記録されました。家の周りの調査は、調査範囲が広く河川や池沼、森林など多様な環境が含まれるために、家での調査より多種類の鳥が記録されたと思われます。そのため、記録表をみると家の周りの調査ではシギ・チドリ類やカモ類などの水辺性の種も多く記録されています。さらに、家の周りの調査は、調査回数が多いために記録される種数も多かったものと考えられます。なお、最近では家での調査も調査地の中には調査が4月から始まっており、両調査とも記録種にレンジャク類やカシラダカ、ツグミなどの冬鳥も含まれていました。

表1は、2023年と2024年繁殖期の家での調査および家の周りの調査による記録率上位15種の記録率を多い順にまとめたものです。記録率の算出方法は、それぞれの種のすべての記録回数を全調査回数で除した値です。

表1. 2023年および2024年夏の調査における上位15種の記録種と記録率

No.	家2023		家2024		周り2023		周り2024	
	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率
1	スズメ	0.74	スズメ	0.75	スズメ	0.86	スズメ	0.87
2	ムクドリ	0.37	ヒヨドリ	0.39	ヒヨドリ	0.80	ヒヨドリ	0.78
3	ヒヨドリ	0.37	ムクドリ	0.37	キジバト	0.77	キジバト	0.76
4	ハシボソガラス	0.35	キジバト	0.34	ハシボソガラス	0.75	ツバメ	0.75
5	キジバト	0.30	ハシボソガラス	0.31	シジュウカラ	0.72	ハシボソガラス	0.74
6	ハシボソガラス	0.30	ハシボソガラス	0.27	ツバメ	0.70	シジュウカラ	0.72
7	シジュウカラ	0.27	シジュウカラ	0.24	ムクドリ	0.66	ムクドリ	0.63
8	ツバメ	0.21	ツバメ	0.21	ハシボソガラス	0.65	ハシボソガラス	0.61
9	ウグイス	0.20	メジロ	0.19	ドバト	0.55	メジロ	0.47
10	メジロ	0.16	ウグイス	0.18	カワラヒワ	0.47	ウグイス	0.46
11	コゲラ	0.15	オナガ	0.13	メジロ	0.43	カワラヒワ	0.44
12	ヤマガラ	0.13	コゲラ	0.13	ハクセキレイ	0.42	ドバト	0.43
13	カワラヒワ	0.13	ヤマガラ	0.11	ウグイス	0.41	ハクセキレイ	0.36
14	ドバト	0.13	ドバト	0.11	オナガ	0.41	オナガ	0.30
15	イソヒヨドリ	0.12	イソヒヨドリ	0.10	コゲラ	0.31	カルガモ	0.27

表から今回も各調査の主要な上位種の顔触れや順位は、兩年および両調査で酷似しています。したがって、これらの種が日本の市街地付近に生息する代表的な鳥と言えます。一方、兩年とも調査範囲が狭い家での調査の記録率は、記録率上位の数種を除くと急激に減少しています。家での調査は、家の周りの調査と違いシーズン当たりの調査回数が5回と少ないため、種の記録の有無に調査地の環境の違いなどが影響するのかもしれませんが、近年では家での調査地の中には、ほぼ毎日のように調査が行なわれる調査地があります。そのため、調査回数が増えることで記録回数の少ない種ではより顕著に記録率が低くなると思われます。

家での調査による主要な種の生息状況の変化

図3は、代表的な人家付近で繁殖する4種の生息状況の経年変化をまとめたものです。解析に用いた調査地は少なくとも7年以上継続して調査が実施されている家での調査地（全国17か所）のデータを用いて、TRIMという解析ソフトを用いて算出した個体数指標の動向で

す。まず、スズメとツバメの個体数指標は、調査地が増えてきた2008年を1とすると多少変動があるものの両種とも有意に減少傾向にあることがわかりました。一方で、メジロとカワラヒワの個体数指標は年により変動があるものの有意な違いは得られず、「安定 Stable」と算出されました。このことから全国鳥類繁殖分布調査（鳥類繁殖分布調査会 2021）でも減少傾向が報告されているスズメとツバメについては、ベランダバードウォッチの調査からも同様の傾向が得られていることがわかりました。一方で、身近な公園や農耕地に生息するメジロやカワラヒワは、現時点ではまだ顕著な増減を示す結果が得られませんでした。

最後に

ベランダバードウォッチは、バードリサーチが設立されて間もない2005年から始まった参加型の調査です。この調査は身近な鳥の生息状況の変化を明らかにすることを目的としています。月日が経つのは早いもので、調査が始まってから20年近くが過ぎました。今回はカ

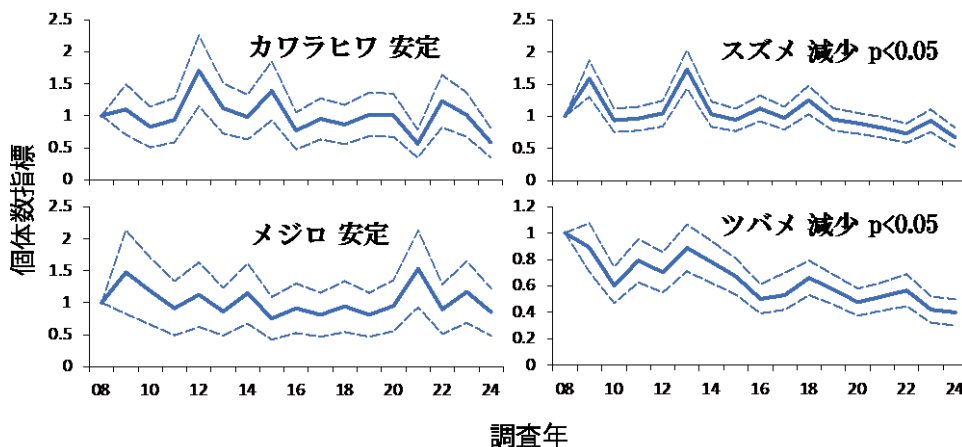


図3. 身近な鳥4種の記録数のこれまでの変化。実線がTRIMによる2008年を1とした個体数指標の推定数で、点線がその標準偏差を示す。

ワラヒワやメジロ、ツバメ、スズメの身近な鳥4種にスポットをあてて繁殖期の生息状況の変化を取りまとめてみました。スズメとツバメは今年の繁殖期の調査に引き続き減少傾向にあることが分かりました。一方で、メジロやカワラヒワでは調査年によって変動があるものの著しい減少や増加は認められませんでした。今後、メジロやカワラヒワの生息状況はどのように変わるのでしょうか。それとも現在と同じように推移するのでしょうか。こうしたモニタリング調査は皆さんの継続した参加が不可欠です。ぜひ、今後も引き続きご参加いただけましたなら嬉しい限りです。末尾ながら、ベランダバードウォッチ2024年繁殖期の調査にご参加いただきました皆様のご芳名を記してお礼に代えさせていただきます。

秋元玲子, 秋山洋佑, 渥美美保, 五十嵐勉, 石田健, 石原渉, 入船憲一, 植田睦之, 梅田麻理, Nate, 江村千佳子, 及川茂, 大井智弘, 大出水幹男, 大沢雅之, 沖田絵麻, 加藤美奈子, 木村元房, 黒沢令子, 小関航, 小林尹夫, 小林俊子, 坂田樹美, 桜田亜希, 笹倉千江花, 佐藤一博, 佐藤司, 佐藤留美子, 島村直幸, 須田由美, 大門明美, 大門聖, 高橋佳子, 滝澤三郎, 武居佳子, 辰巳文吾, 田中利彦, 辻谷英樹, どんぐり, 中家由理, 長嶋宏之, 西岡長閑, 西川光一, 西田好恵, 野崎研, 野村京子, 野村英樹, 菱田清和, 日比野政彦, 平野敏明, 三田長久, 三藤文彦, 宮崎朋子, 安田耕治, 山添隆文, 山田昭光, 弓場梨加, 吉岡研二郎, 吉中康展, 吉邨隆資, 我妻益美以上61名の皆さん。

とりまとめ：平野敏明

付表. ベランダバードウォッチ2024年夏の調査記録種一覧

No.	種名	家	周り	No.	種名	家	周り	No.	種名	家	周り
1	キジ	○	○	40	オオタカ	○	○	79	ヒレンジャク	○	
2	ヒドリガモ		○	41	ハイタカ	○	○	80	ゴジュウカラ		○
3	マガモ	○	○	42	サシバ	○	○	81	ムクドリ	○	○
4	カルガモ	○	○	43	ノスリ	○	○	82	コムクドリ	○	○
5	コガモ		○	44	フクロウ	○		83	カワガラス		○
6	スズガモ		○	45	アオバズク		○	84	トラツグミ		○
7	カイツブリ		○	46	アカショウビン	○	○	85	シロハラ	○	○
8	キジバト	○	○	47	カワセミ	○	○	86	アカハラ	○	○
9	アオバト	○	○	48	コゲラ	○	○	87	ツグミ	○	○
10	カワウ	○	○	49	アカゲラ		○	88	コルリ		○
11	ミゾゴイ		○	50	アオゲラ	○	○	89	ジョウビタキ	○	○
12	ゴイサギ		○	51	チョウゲンボウ	○	○	90	イソヒヨドリ	○	○
13	ササゴイ		○	52	チゴハヤブサ	○		91	コサメビタキ		○
14	アオサギ	○	○	53	サンショウクイ	○	○	92	キビタキ	○	○
15	ダイサギ	○	○	54	サンコウチョウ	○	○	93	オオルリ	○	○
16	チュウサギ	○	○	55	モズ	○	○	94	スズメ	○	○
17	コサギ	○	○	56	カケス		○	95	キセキレイ	○	○
18	ヒクイナ		○	57	オナガ	○	○	96	ハクセキレイ	○	○
19	バン		○	58	ハシボソガラス	○	○	97	セグロセキレイ	○	○
20	オオバン		○	59	ハシブトガラス	○	○	98	ビンズイ		○
21	ホトギス	○	○	60	ハシブトガラ		○	99	アトリ	○	○
22	ツツドリ	○	○	61	コガラ	○		100	カワラヒワ	○	○
23	カッコウ	○	○	62	ヤマガラ	○	○	101	マヒワ		○
24	ハリオアマツバメ		○	63	ヒガラ	○	○	102	シメ	○	○
25	アマツバメ	○	○	64	シジュウカラ	○	○	103	コイカル		○
26	ヒメアマツバメ		○	65	ヒバリ	○	○	104	イカル	○	○
27	ケリ	○	○	66	ツバメ	○	○	105	ホオジロ	○	○
28	イカルチドリ		○	67	コシアカツバメ	○	○	106	カシラダカ		○
29	コチドリ	○	○	68	イワツバメ	○	○	107	ミヤマホオジロ	○	
30	オオジシギ	○		69	ヒヨドリ	○	○	108	アオジ	○	○
31	タシギ		○	70	ウグイス	○	○	109	クロジ		○
32	クサシギ	○	○	71	エナガ	○	○	110	コジュケイ	○	○
33	キアシシギ	○	○	72	オオムシクイ	○	○	111	ドバト	○	○
34	イソシギ	○	○	73	エゾムシクイ	○		112	ホンセイインコ	○	○
35	オジロトウネン	○	○	74	センダイムシクイ	○	○	113	ガビチョウ	○	○
36	コアシサン	○	○	75	メジロ	○	○	114	カオグログビチョウ	○	
37	ミサゴ		○	76	オオヨシキリ		○	115	ソウシチョウ		○
38	トビ	○	○	77	セッカ		○	116	ハッカチョウ	○	
39	ツミ	○	○	78	キレンジャク	○			種数	80	104